

地震から身を守る心得10ヶ条

地震が起きたらどうすべきか。日頃から地震発生時の行動の基準を身につけておくことで、被害を最小限におさえることができます。落ちついて行動をしましょう。

- 1 まず落ちついて身の安全を図りましょう**

なによりも大切なのは命。地震が起きたらテーブルの下にもぐるなど、まず第一に身の安全を確認しましょう。
- 2 すばやく火の始末あわてず、さわがず冷静に!**

「火を消せ!」とみんなの声をかけ合い、使用中の調理器具や暖房器具などの火を確実に消しましょう。
- 3 戸を開けて出口を確保しましょう**

建物内にいるときは、閉めたままと建物の中がゆがみ、出入口が壊れることがあります。揺れを感じたら玄関などの扉を開けましょう。
- 4 火が出たらまず消火!!**

万一出火したら「火事だ!」と大声で叫び、隣近所にも協力を求め初期消火に努めましょう。
- 5 外へ逃げるときはあわてないで!**

外に逃げるときは、瓦やガラスなどの落下物に注意し、周囲の状況を確かめ冷静な行動を心がけましょう。外出中の家族にメモを残し、お年寄りや子供の手をしっかりと握って瓦やガラスなどの落下物に注意しましょう。
- 6 狭い路地、崩さむ、がけや川べりに近寄らないようにしましょう**

ブロック塀、門柱、自動販売機などは倒れやすいので注意しましょう。がけや川べりも崩れやすいので近づかないようにしましょう。
- 7 山崩れ、がけ崩れ、津波に注意しましょう**

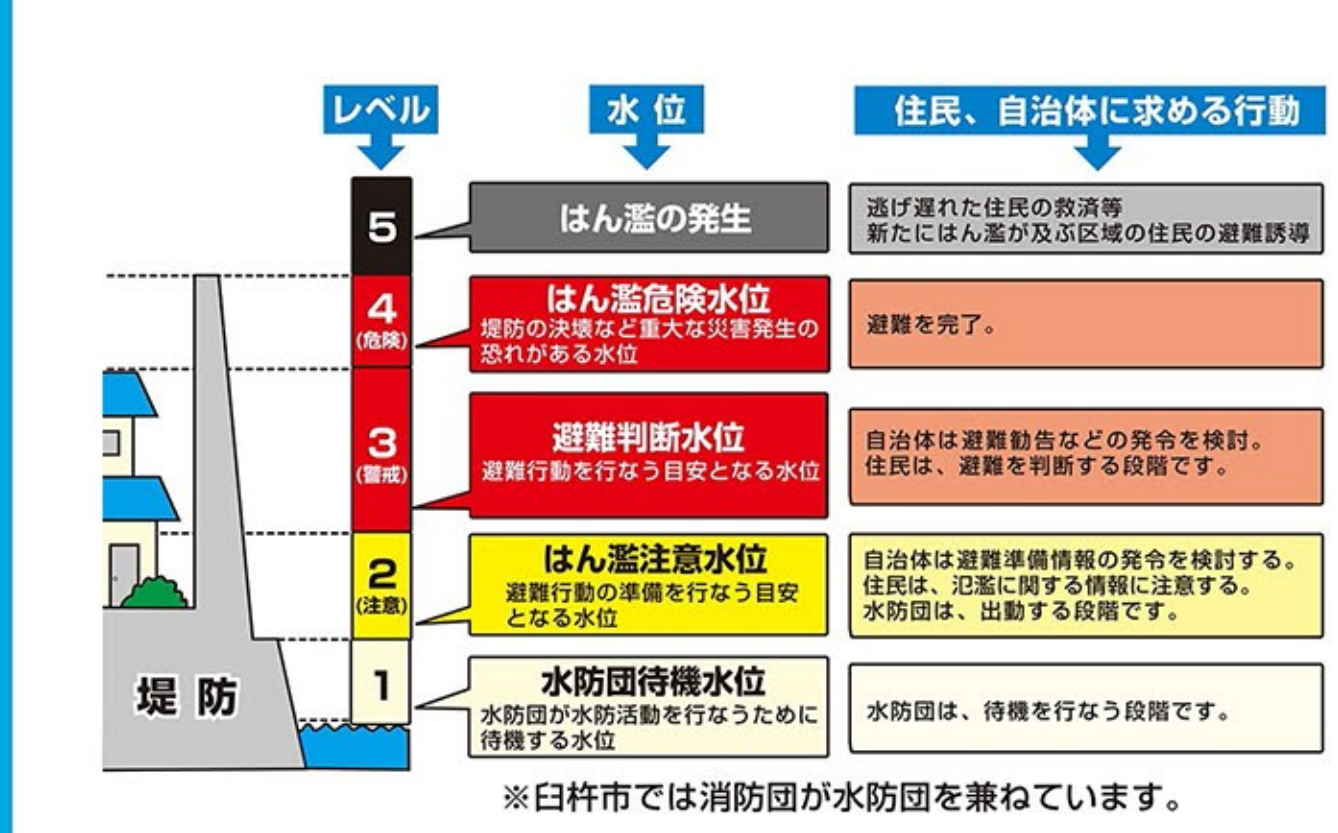
山間部や海岸地帯で地震を感じたら、早く安全な場所へ避難しましょう。
- 8 避難は徒歩で、荷物は最小限に!**

車を使わず、指定された避難場所に徒歩で避難をしましょう。荷物を持たずと避難の支障になります。車での避難は渋滞をひきおこして避難を妨げる可能性があります。
- 9 みんなで協力して「応急救護」を!**

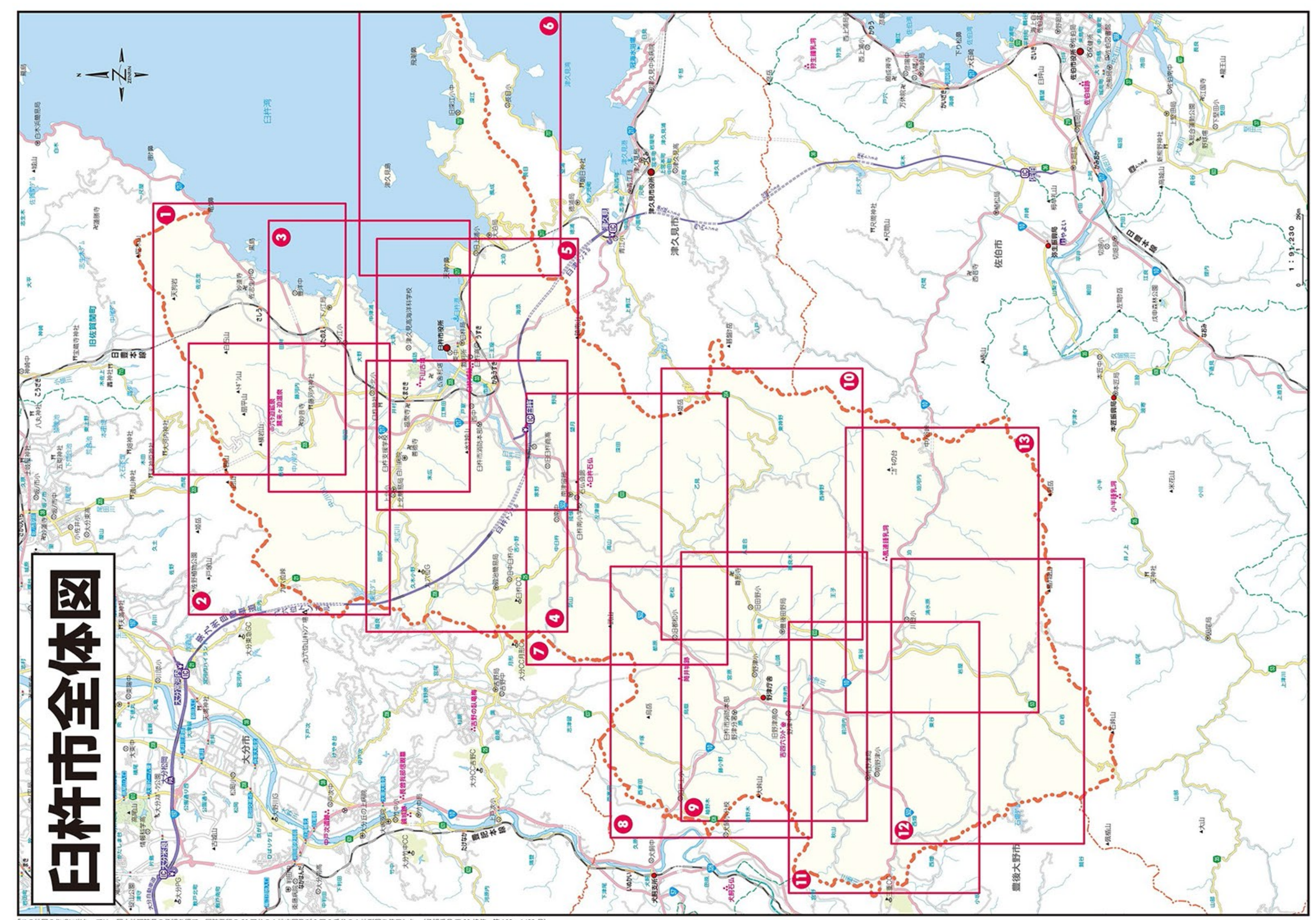
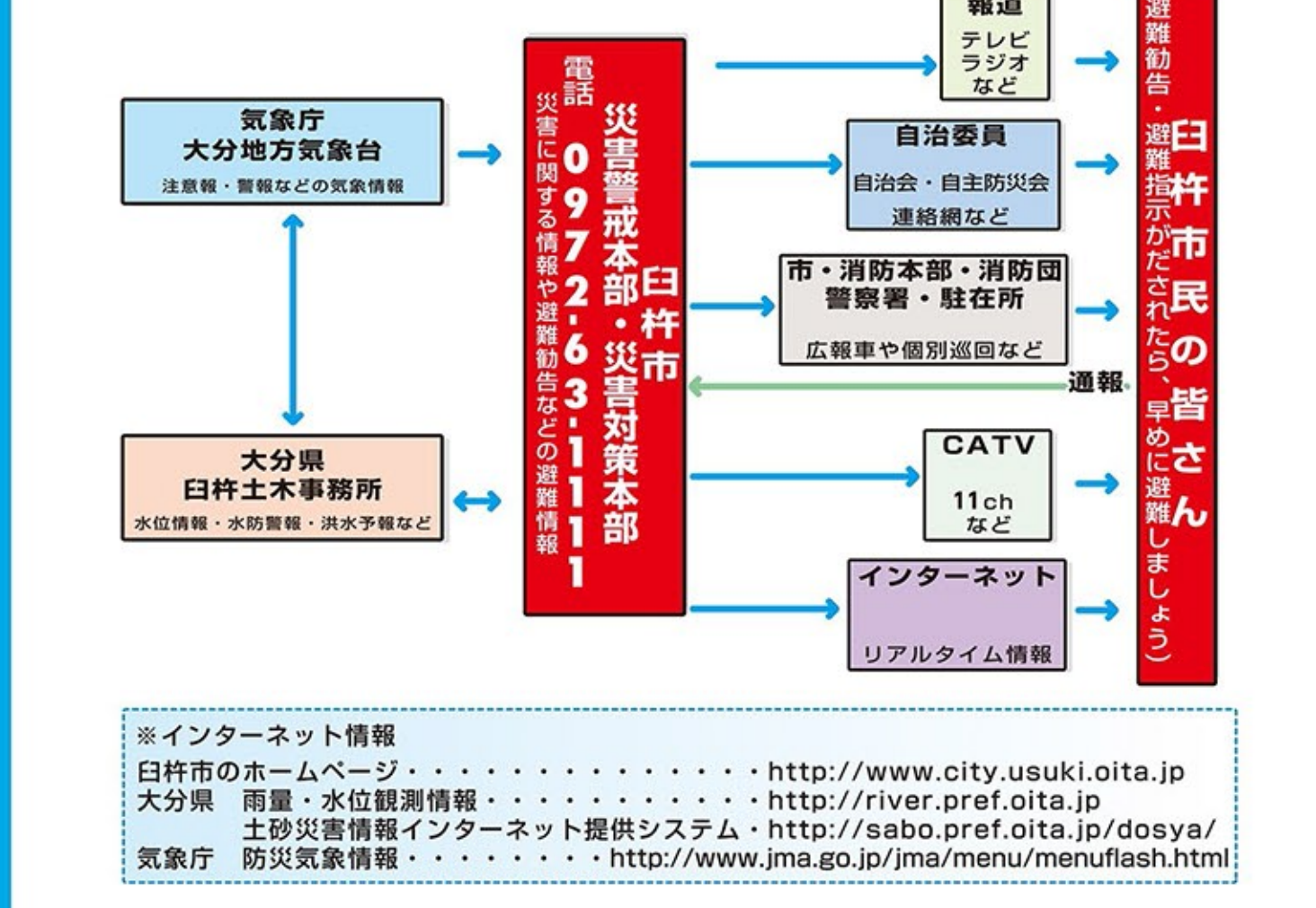
お年寄りや身体の不自由な人、ケガ人などに声をかけ、みんなで助け合い応急救護をしましょう。
- 10 正しい情報をつかみ余震に注意しましょう**

テレビやラジオ、市からの正しい情報を得て、うわさやデマに振り回されないようにしましょう。テレビやラジオで正しい情報を得ましょう。

◆水位に応じた危険度レベル



◆情報の伝達経路 (洪水等災害情報や避難情報の流れ)



緊急連絡先		
名 前	住 所	電話番号

災害用伝言ダイヤル「171」

■伝言の録音方法■ 171にダイヤル

ガイダンスが流れます

1自分の伝言を登録する 2被災者の伝言を確認する

ガイダンスが流れます

被災者の電話番号を市外局番から入力する

伝言を録音する(30秒以内) 伝言が流れる

災害用伝言板「メール」

■伝言の録音方法■ 171にダイヤル

「登録」を選択する

伝言を入力する

「登録」を押して完了

■伝言の再生方法■ 171にダイヤル

「確認」を選択する

被災者の電話番号を入力する

「検索」を押して完了

※災害用伝言ダイヤル「171」は「い(い)」「7(な)」「1(い)」で覚えましょう

◆緊急連絡先

●もし、あなたの近くで災害が発生したときはご連絡ください。

防災担当課		臼杵市役所総務課 総務課 電話 0972-63-1111(内線2131)
消防署	臼杵市消防本部・消防署	電話 0972-62-2303
	野津分署	電話 0974-32-2411
警察署	臼杵津久見警察署	電話 0972-62-2131

停電の場合の問い合わせ先		
臼杵地域	九州電力佐伯営業所	電話 0120-986-506(フリーダイヤル)
野津地域	九州電力三重営業所	電話 0120-986-505(フリーダイヤル)

※西神野地区に関しては佐伯営業所までお問い合わせください。

臼杵市防災マップ

-洪水・土砂・津波ハザードマップ-

その12

出羽、南白岩
中野、岩屋
豊倉、長谷
戸屋平、白岩
須久保

このマップを利用して家の周囲の危険箇所を再確認しましょう。
このマップの浸水想定雨量は 30-50 年に 1 回程度起こる大雨 (24 時間に 450mm-500mm) を想定したものです。
津波浸水想定区域については、南海トラフの巨大地震 (M9.1) が発生した場合の津波 (期望平均満潮位) を想定したものです。

風水害対策

台風・大雨・強風…。あなたの家の風水害対策は大丈夫ですか。
家の中や周囲をしっかりとチェックしましょう。
家の内外の風水害対策

屋外

- 鉢植えや、物干し竿等飛ばされる恐れのあるものは室内へ移動しましょう。
- 瓦のひび・割れ・ずれ・はがれがないか確認しましょう。
- トタンのめくれ・はがれがないか確認しましょう。

屋内

- 停電に備えて懐中電灯や携帯ラジオの準備をする。
- 避難に備えて貴重品などの非常持出品の準備をする。
- テレビ、ラジオ等の大雨・台風情報を注意深く聞く。
- むやみに外出しない。
- 断水などの恐れがあるため、飲料水を確保しておく。
- 浸水などの恐れがあるところは、家財道具や食料品・衣類・寝具などの生活用品を高い場所へ移動する。
- 病人や乳幼児、身体の不自由な人などを安全な場所へ移動させる。
- 避難場所の確認

◆避難するときの注意点

命を守る行動を

水平避難

危険な状況での避難はできるだけ避け、安全の確保を第一に考えましょう。危険が迫っている場合は、指定された避難場所への避難 (水平避難) だけでなく、命を守る行動が必要な避難 (垂直避難) があります。

垂直避難

浸水による建物倒壊がないと判断される場合には、自宅や近隣の 2 階以上の建物に一時的に避難し、救助を待つことも検討してください。
例：夜間などで避難路上の危険箇所がわかりにくい
ひざ上 (50 cm 以上) まで浸水している
浸水は 10 cm 程度だが、用水路などの位置が不明で転落のおそれがある

◆安全に避難するために

動きやすく安全な服装で 隣近所で声を掛け合って 車は使わない

持ち物はリュックで、手は自由に、長靴よりひも付き運動靴で避難しましょう。

避難するときは 2 人以上で、隣近所への声をかけをしましょう。

車は数十センチの浸水で浮いてしまします。避難するときは車は使わず歩いて避難しましょう。

マンホールや側溝に注意

洪水の水は茶色く濁っており、水路と道路の境やふたが開いているマンホールの穴は見えません。やむを得ず水の中を移動するときは、棒で足下を確認しながら移動しましょう。

風水害で起こる土砂災害の種類を知ろう

急傾斜地崩壊危険箇所 (おびけ崩れ)

おびけ崩れは、急な斜面で突発的に起こり、瞬時に崩れ落ちるため、避難が遅れがちになります。

土石流危険渓流

土石流は、谷筋で起きますので、土砂などが水と混じり合いに流れ下り、速く大きな破壊力を持っています。

地すべり危険箇所

地すべりは、一度に広い範囲の地盤が動きだしますので、被害は緩やかですが、発生すると大きな被害をもたらします。

前ぶれ

- がけからの水が濁ります
- がけに亀裂が入ります
- 小石がバラバラ落ちています
- 沢や井戸の水が濁ります
- 斜面がくらくらと揺れます
- 雨水が斜面を流れて濁りができます
- 雨の日に斜面から大きな音が出ます

前ぶれ

- 地面にひび割れがでます
- 沢や井戸の水が濁ります
- 斜面から水がふき出します

前ぶれ

- 山崩れがします
- 川が濁り、流れている川の水位が下がります
- 川の流れて濁ったり泥水が溢れ始めます

この地図の作成に当たっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の 50 万分の 1 地形図及び 2 万 5 千分の 1 地形図を使用した。(承認番号 平 23 情保、第 192-A433 号)